



先月号で私の拾い食いの成果を「けがの功名」として述べさせていただきましたが、今回は怪我の功名どころか生死の境を彷徨った「たま

ねぎ中毒事件」について報告させていただきます。私が4歳のころ、飼い主のおばあちゃんが物干し場に並べて干しておいた玉ねぎが、大風の吹き荒れた翌朝にフェンスの隙間から私の目の前に転がり出てきたのです。「転がるものは追いかける」のが犬の習性、さらに「なんでも食べてみよう」を座右の銘としている私にしてみればかじってみるのは当たり前、そしてどの位の時間が経ってからだったのでしょうか。「真っ赤かなおしっこ・激しい吐き戻し・水溶性の下痢」と3重苦が私を襲ったのです。最初飼い主さんは何が起こったのか判らなかったのですが、庭にかじりかけの「玉ねぎ」が転がっているのを見て事態を理解したのです。すぐにS先生の元へ連れて行かれ点滴をする事になりましたが、私の血管は皮膚の表面に浮き出て来ないので針を血管に命中させることは簡単ではありませんでした。それでもS先生の治療のおかげで数日後には体力を回復させることができましたが、先生のお話では体重の少ない小型犬の場合は致命傷になる事が多いそうで、私はその体重（30kg）の重さで助かったと考える良さそうです。

私が食べた玉ねぎの量はよくよく少量の、カレーライスで言えばスプーン1杯に乗る程度のもので、まるまる1個などと言うものではありませんでした。それでもどうしてあのような激しい症状が現れるのかと言うと、どうも「遺伝的な要因による処が大きい」と言われている様です。食べた量に関係なく体質的に玉ねぎに強い犬と弱い犬がいるようで、これは人間族のお酒に強い人と弱い人がいるのと良く似ているような気がします。

皆さんも食べ物による中毒にはくれぐれも気を付けてこの暑い夏を乗り切ってください、先ずは暑中お見舞いまで。